

# 激動するアジア情勢と日本



text by 伊藤 高史 + photographs by Yocco

## ある日突然難民に

私は一九五三年にチベットで生まれましたが、当時のアジアはまだ新しい国ばかりでした。インド、パキスタン、中華人民共和国など、第二次世界大戦後にできた国ばかりです。多くの国は百年以上の長い植民地支配の後に独立したのです。国連加盟国は現在一九三カ国ですが、発足時はわずか五一カ国でした。このように新しく国ができていく中で、逆に私は祖国を失いました。五、六歳の頃は、自分の家で何の不自由も無い生活をしていましたが、ある日突然難民になってしまったのです。当時の中国大陸では、現在の北京政府が国民党との争いに勝ち、覇権を広げようとしている所でした。「まだ我々の本場の戦いは終わっていない。本来の我が国全ての領土を回復するまで、この革命は終わらない」というのが北京政府の見解です。しかし北京政府が言う中国本来の領土とは、過去二十四回の王朝の中で間接的・直接的問わず、かつて何らかの形で影響があった国のことです。北京政府は「解放」と言いますが、チベット、ウイグル、モンゴルからすると「侵略」です。チベットはその最初のターゲットとなってしまう

ました。私の家にも北京政府の軍が攻め入り、私はインドへと亡命したのです。世界の多くの国では、歴史には裏づけがあり、国民がある程度納得しています。しかし中国という国では、歴史は作文のようなものです。時の政権にとって都合のいいように書かれます。憲法ですらそうです。日本では戦後アメリカに押し付けられたような憲法が半世紀以上も続いています。しかし中国では一九七九年から今日まで、党大会が行なわれる度に変わっています。その為、時の指導者や権力者の名前が憲法に入っているのです。そういった中でチベットが「解放」の対象になりました。国は生まれ、消えているということを目撃した。本人も理解して下さい。

## 祈るだけでは平和は保持できない

チベットは一六〇〇年代から鎖国政治をし、国内だけでの平和を享受していました。男性の約三割がお坊さんになり平和を祈っていました。しかし、祈っているだけでは平和は保持できないのです。中国が約二十万人の軍隊を送ってきた時、二十七万人いたお坊さんはただ祈ることしかできませんでした。その結果、チベットの二千年の歴史

の中で最も暗い歴史を歩むことになりました。今のダライ・ラマ法王はまだ十代でした。しかし当時の内閣は法王を頼り、何もしてませんでした。全ての責任を押し付けられた法王は、できれば和解したいと自ら北京に赴き、様々な方法を模索しましたがが解決できませんでした。挙句の果てに、中国は自らが押し付けた十七条の条約すら守ってく

からは日本が大きな役割を果たすと誰もが期待したと思います。日本は西洋の科学や技術を習得し、応用し、それを自分たちで昇華できるほどになりました。同時に、東洋の素晴らしい精神文化を持ち合わせています。日本以外の国々では、西洋の文化は自ら取り入れたのではなく、無理やり押し付けられたものです。日本は不必要な部分や悪い部分を取捨選択しながら、良い部分を取り入れることができたのです。

日本は精神性と物質面で非常にバランスの取れた国で、誰もが二十一世紀の主役は日本だと思っていました。しかし、現在の激動のアジアを見た場合、日本は必ずしも主役とは言えません。主役は中国とインドに奪われていると思います。この現実を認識しなければなりません。今の日本は残念ながら経済ですら衰退の一途を辿っていると言えます。

侵略とは必ずしも武力だけではありません。心理的、経済的、文化的な侵略もあるのです。一九五〇年、中国は鉄砲を持って侵略にきました。アメリカ帝国主義から守るという名目で軍人が送られてきましたが、一九五七年頃になると、いつの間にか名目は変わり、チベットの伝統文化や政治制度を破壊することが革命だと言われるようになりました。お坊さんは生産性が無いということから食事を与えられなかったり、死ぬまで殴る人民裁判のようなものが行なわれたりしました。そして国民が国民を監視するようなシステムが作られ、約百二十万人のチベット人が命を奪われたのです。中国ではチベット人だけではなく、自国民の虐殺も行なっています。残念なことですが、日本のマスコミは真実を伝えてはいません。戦争は地獄です。戦争は起きないに越したことはありません。国は、失ったら取り戻すのは難しいのです。ですから、この日本を大事にして欲しいと思います。

## 二十一世紀はアジアの時代

二十年前に、二十一世紀はアジアの時代だと言われました。ソ連の共産主義が行き詰まり、これ

らの方々の活躍を期待しています。二十一世紀の主役が日本になる為にも、これか

## 日本は精神性と物質面で非常にバランスの取れた国で、



ペマ・ギャルポ Pema Gyampo

(桐蔭横浜大学・大学院教授)

- '53年 チベットのカム地方ニヤロン(現在の中華人民共和国四川省)生まれ。
- '59年 ダライ・ラマ14世に従いインドへ亡命。難民キャンプで少年期を過ごす。
- '65年 木村肥佐生重慶大学教授らの支援により12月来日。重慶大学法学部卒業、上智大学大学院中退、東京外国語大学AA研究所修了。
- '80年 ダライ・ラマ法王アジア・太平洋地区担当初代代表に就任。NPO、NGOなど多数の役職を兼任。
- '05年11月 日本に帰化。
- '07年 モンゴル大統領顧問(社会・文化担当)に就任。



### 著書

『中国が隠し続けるチベットの真実』

¥ 756 扶桑社新書 2008年

チベットの人々は今世界に何を訴えているのか? 2008年3月14日、チベットで起きた中国政府に対する抗議デモはなぜ大規模な「騒乱」に発展したのか?そもそも「チベット問題」とは何なのか? 中共のチベット侵攻の経緯と真実。